

「外来における感染対策」

広島市医師会運営・安芸市民病院
島中 延枝

超高齢社会に突入し、今後も高齢化率は上昇すると予測されており、医療の高度化・複雑化が進む中で、デジタル技術の急速な進化や新型コロナウイルスによるパンデミックなど、近年はこれまで経験したことがないような変化が起きています。

こうした出来事が次々と起こる現代はVUCA（ブーカ）時代とも呼ばれています。こうした状況下で、多くの日本企業がグローバルサウスの国々に拠点を設けており、駐在や出張するビジネスマンも増えています。そこには、大きなビジネスチャンスがある一方、感染症など健康面のリスクが今まで以上に存在します。

特に、今年はインド、アフリカ、中南米などで、感染症の新しい流行が次々と報告されており、滞在する日本人への健康上の脅威になるだけでなく、日本に持ち込まれるリスクも高くなっています。

特に冬は流行する感染症も多く、感染者の受診が増加する時期でもあります。

そこで、体調不良時に受診者の多くが訪れる外来における感染対策について皆さまと一緒に学びを深めたいと思います。